

研究だより

令和2年11月9日(月)
渋谷区立上原小学校
校長 河口 尚志
研究推進委員会

テーマ：つぶやきやひらめきから考えを深める児童の育成

研究推進委員より

10月26日(月)に5年1組で研究授業を行いました。国語「大造じいさんとガン」でした。9月から導入された新しいタブレットに入った協働学習アプリ「ムーブノート」を単元のはじめに使用して、それぞれの初発の感想を共有・比較し、どんな言葉にみんなが着目したのかをすぐに分かるようにしました。

26日は山場の場面の読み取りでした。「大造じいさんの気持ちが変わったところはどこか考えよう」というめあてのもと、パワーポイントで配信された本文に、描画機能を使って線を引き、その引いたところを共有しました。タブレットを突き合わせて、なぜそこに線を引いたのかを伝え合ったり、納得したところには色を変えて線をつけ足したりして学び合っている姿が見られました。

協議会では、ICTをどのように使えば子供たちの考えを有効的に共有できるのか、ICTを使って考えを「深める」にはどのような視点で学習を組み立てていけばよいのかについて明治大学専任准教授・岸磨貴子先生に助言をいただきながら考えていきました。

10月26日(月)の研究授業の様子

5年 国語科「大造じいさんとガン」

導入

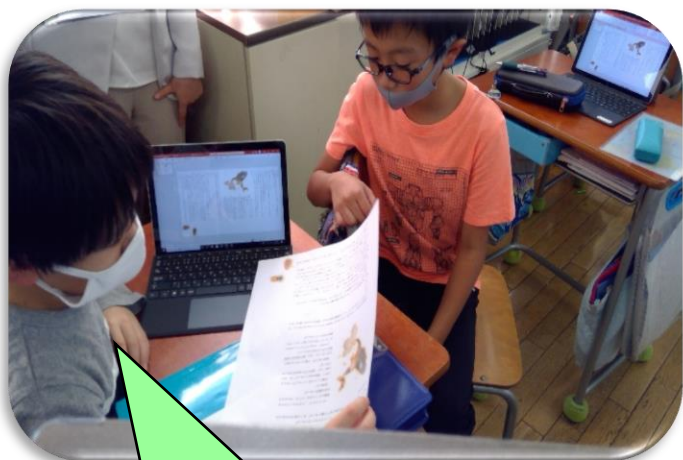
前時までに学習してきた大造じいさんの行動やそのときの気持ち、気持ちが表れている描写について振り返りました。



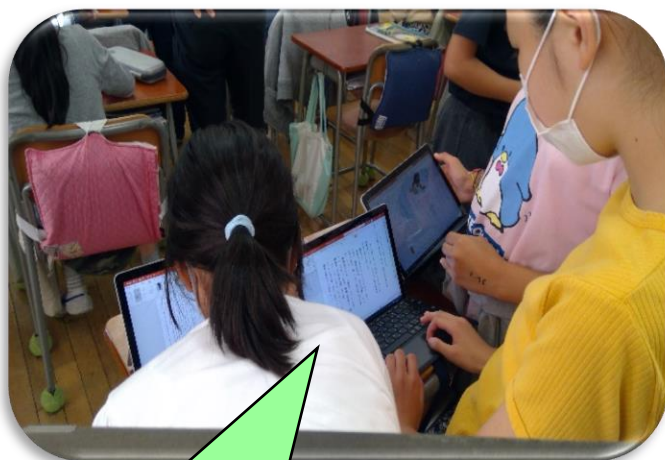
ICT機器でなく、あえて模造紙にまとめることで、それまでの大造じいさんの気持ちを、いつでも子供たちが確認できるようにしました。

展開1

パワーポイントの描写機能を使って線を引き、友達と考えを伝え合い、追加したり、変更したりしました。



どこに線を引いたのか、その線のところでどのように気持ちが変わったのか、なぜ変わったと分かるのか意見を伝え合いました。



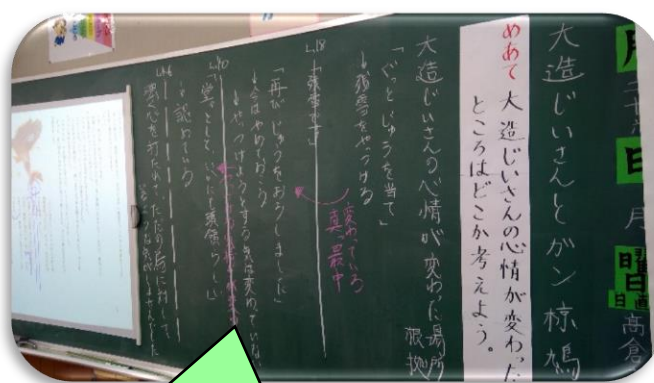
タブレットを持ち寄って意見を交流していました。友達の考えを聞いて付け加えたところには、色を変えて線を引くなどの工夫が見られました。

展開2

交流によって自分の考えをもてた後、大造じいさんの気持ちはどこでどのように変化したのか学級全体で議論しました。



子供たちからは、大造じいさんの気持ちが変わったポイントがいくつか挙げられ、どのように変わったのか、どの描写から分かるのかについて議論が交わされました。



気持ちが変わったのはどこなのか、それがどのような「気持ちの変化」なのか、本文の表現をもとに考えを深めました。